

# 2015年6月15日 掲載 物流ニッポン

## 共同運行を拡大

### 近畿→関東ルート開始

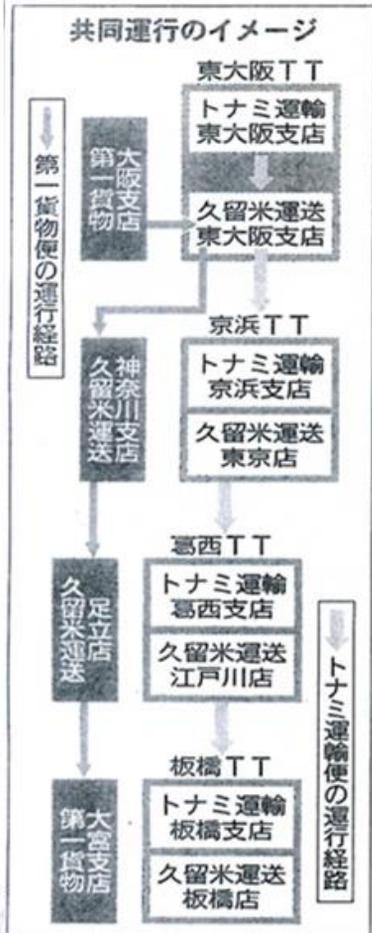
トナミ運輸(綿貫勝介社長、富山県高岡市)、第一貨物(武藤幸規社長、山形県久留米市)の中堅特積3社が幹線輸送の共同運行を拡大する。中部・東海から関東向けに続き、7日からは近畿から関東向けを開始。3社はルートの拡大とともに、施設の共同利用や共同配達についても協議を進めている。ただ、特積業界では「共同運行」への期待感が強いものの、物量や集荷の締め切り時間の違いなどから、必ずしも思惑通りに進んでいないのが実情だ。(高木明)

### 特積3社

近畿から関東向けの共同運行は、荷物が落ち込む土・日曜便の各1便を対象に実施。東大阪トラックターミナル(東大阪T)、大阪府東大阪市)を起点に、トナミ運輸の便が久留米運送の関東向け6ト、また第一貨物の便が同じく久留米運送の東京・神奈川向け6トを積み、この結果、久留米運送は運行を1便減らすことができる。

1月から始まった中部・第一貨物と久留米運送は東北・九州の幹線輸送を、中間地点の大阪(東大阪T)で、両社のドライバーが入れ替わり、それぞれ出発地に戻る「シェイクハンド運行」を実施している。

特積業界では、幹線便の積載率が利益確保に直結することから、各社は積載率の改善・向上の取り組みを強化している。業界最大手のセイノーホールディングスと福山通運も共同運行や配達先が同じ貨物の「共同一括配達」を実施しているが、一括配達が順調に実施エリアを拡大しているのに対し、幹線の共同運行は計画通り進展していない。



現在、東京→大阪で1日6便(往復12便)を仕立て、毎日運行している。更に、

ている。